

授業概要

日本文学の入門的授業として日本の近代文学を取り上げ、それを鑑賞、分析することで、多様な「文学」の世界を知り、それを分析する方法や意味を学ぶ。

前半は、具体的な文学作品を取り上げて、「読む」とはということなのか、読むことによって作品世界とそれを読む自分の世界がどのように広がるのかを考えてもらえるように講義する。

後半は、文学作品と映像作品を比較考察することで、「文学」の特性やその可能性を学べるように講義する。講義形式だが、授業内では多くの課題を解いてもらうことになる。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	「文学」を読むということ
第 3 回	田山花袋「少女病」を読む①
第 4 回	田山花袋「少女病」を読む②
第 5 回	堀辰雄「水族館」を読む①
第 6 回	堀辰雄「水族館」を読む②
第 7 回	川端康成「伊豆の踊子」を読む①
第 8 回	川端康成「伊豆の踊子」を読む②
第 9 回	三島由紀夫「春の雪」を読む①
第 10 回	三島由紀夫「春の雪」を読む②
第 11 回	三島由紀夫「春の雪」を観る 映画版①
第 12 回	三島由紀夫「春の雪」を観る 映画版②
第 13 回	三島由紀夫「春の雪」を観る 宝塚版①
第 14 回	三島由紀夫「春の雪」を観る 宝塚版②
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末試験

到達目標

- 多様な「文学」の世界を知り、それを読み分析することができるようになる。
- 「文学」を分析することの意味や方法について、学び、自分なりの考えを持つことができるようになる。
- 国語科教員としての最低限の文学的知識を身につけることができるようになる。

履修上の注意

- 欠席遅刻をしないこと。
- 授業中私語をしないこと。

予習・復習

- 予習：授業で取り上げる文学作品を読んでおく。
- 復習：授業で取り上げた文学作品について、授業内容を想起しながら読み返す。

評価方法

授業内で行う毎回の課題を 50%、期末試験を 50%で評価する。

テキスト

プリントを配布する。

授業概要

この授業では、『百人一首』を教材として和歌文学について講義する。奈良時代から鎌倉時代までの和歌を取り上げ、丁寧に読み解いていく。和歌は千年を優に超える歴史を持つ、日本古典文学の核となる文学ジャンルである。和歌にこめられたイメージや、それを表現するために用いられた技法に注目する。一首の歌を〈読む〉という行為を通じて、三十一文字の文字列から複雑な感情や豊かな世界を思い描く想像力を養ってほしい。

また、第2回～第11回までの講義では、『万葉集』や勅撰集についての概説も行う。最も基本的な和歌史の知識を身につけることを目指す。

授業計画

第1回	「古典文学」の範囲と和歌史の流れ
第2回	『万葉集』と歌人(3 柿本人麿 4 山辺赤人)
第3回	『古今集』と歌人①(9 小野小町 17 在原業平)
第4回	『古今集』と歌人②(29 凡河内躬恒 30 壬生忠岑)
第5回	『後撰集』と歌人(42 清原元輔 45 謙徳公)
第6回	『拾遺集』と歌人(47 恵慶法師 55 大納言公任)
第7回	『後拾遺集』と歌人(57 紫式部 59 赤染衛門)
第8回	『金葉集』と歌人(75 藤原基俊 78 源兼昌)
第9回	『詞花集』と歌人(79 左京大夫頭輔 80 待賢門院堀河)
第10回	『千載集』と歌人(87 寂蓮法師 89 式子内親王)
第11回	『新古今集』と歌人(91 後京極摂政太政大臣 98 従二位家隆)
第12回	和歌史を変えた歌人①(35 紀貫之 46 曾禰好忠)
第13回	和歌史を変えた歌人②(56 和泉式部 66 大僧正行尊)
第14回	和歌史を変えた歌人③(74 源俊頼 83 皇太后宮大夫俊成 86 西行法師)
第15回	和歌史を変えた歌人④(97 藤原定家 99 後鳥羽院)
第16回	筆記試験

到達目標

- ①和歌に詠まれた内容について、技法・語法を踏まえた上で想像力を持って読解する。
- ②和歌の内容や背景を学ぶことで、古代日本人の感性や習俗を知り、古典文学に親しむ。
- ③和歌史について、大まかな流れを把握する。

履修上の注意

基礎知識から授業するため、高校時代に古典が苦手であったとしても問題ない。ただし、回を追うごとにそれまでの内容を前提として授業を進めるので気をつけてほしい。

また、授業中に意見を求めるので、指名された際には考えを述べること。

予習・復習

「履修上の注意」に記したように前回の内容を踏まえて授業を進めるので、授業内容の復習は行うこと。

評価方法

定期試験(100%)の結果で判定する。

テキスト

- ・教科書名：百人一首解剖図鑑
- ・著者名：谷知子
- ・出版社名：株式会社エクスナレッジ

なお、杉田圭『超訳百人一首 うた恋い。』(KADOKAWA)を事前に読んでおくと、より内容が理解できる。マンガなので読みやすい。

授業概要

日本児童文学の代表作の中から幾つかの作品を選択して教材とします。子どもは、世界を分析したり合理的に解釈したりする力は未発達な部分がありますが、恣意的な分析・合理的な解釈の度合いが低いからこそ、かえって見えてくるもの・認識できるものがあると思われます。その意味で、子どもを対象として創作された児童文学には、大人には見えない貴重な世界が描かれていると考えられます。特に異界という視点は、重要な世界認識の転換を読者にもたらすものと考えられます。

この授業では、日本近現代の歴史を背景に日本近現代児童文学の流れ、日本近代文学の流れ、海外児童文学の流れ等を視野に入れながら、代表的な児童文学作品を読み講義します。基本的に講義形式で行いますが、発表形式も取り入れ、毎回作品について全員がコメントを発表します。学外施設見学も行います。

授業計画

第1回	ガイダンス、児童文学史概観
第2回	小川未明『赤い蝋燭と人魚』他
第3回	『赤い鳥』掲載作品より芥川龍之介『杜子春』他
第4回	濱田廣介『泣いた赤鬼』他
第5回	宮澤賢治①『注文の多い料理店』他
第6回	宮澤賢治②『ペンネンネンネン・ネネムの伝記』より
第7回	宮澤賢治③『風野又三郎』より
第8回	宮澤賢治④『銀河鉄道の夜』より
第9回	宮澤賢治⑤伝記
第10回	新美南吉『狐』他
第11回	戦後の児童文学1（松谷みよ子・斉藤隆介・安房直子）
第12回	戦後の児童文学2（佐藤さとる・天沢退二郎）
第13回	童話と絵本（宮田正治『見沼の竜』他）、現代の児童文学（『怪談レストラン』『学校の怪談』）
第14回	施設見学1（『見沼の竜』に基づく周辺見学等）
第15回	施設見学2（国際子ども図書館、東京子ども図書館等）
第16回	総まとめ（期末試験）

到達目標

近現代日本児童文学の歴史を学び代表的な作品を読むことから、近現代日本児童文学についての知識と教養を得るとともに、作品について発表をすることとコメントを書くことで、作品を読んで想像したり考えたりする力を養います。

履修上の注意

毎回、作品についての感想、疑問点、意見、考察などを発表しますので、常に自分で読み考える姿勢で受講してください。また、作品を音読する機会も作りたいと思いますので、音読に慣れることを心がけてください。

遅刻は20分以内までとし、遅刻3回で欠席1回とします。

施設見学は、土日に授業を振り替えて行います。

予習復習

作品は事前にプリントで配布しますので、授業までに必ず読んで発表内容をノートにまとめてきてください。自分なりの問題意識をもって授業に臨んでください。

評価方法

受講態度・発表・コメント・自主的な発言・施設見学レポート・期末試験などを、総合的に評価します。

期末試験 50%、課題 30%、受講態度 20%

テキスト

毎回の授業で、次回の作品のプリントを配布します。